

平成 29 年度 研究計画書

Research Plan FY2017

講座名・職名 Course Title・Job Title	ヨーロッパ・アメリカ I 講座・教授
氏名 Name	大津智彦
専門分野 Academic Field	英語学

平成 29 年度 研究計画（ホームページで公開） Research Plan FY2017 (Post on Website)

主たる研究テーマ Principal Research Subject	英語統語法の歴史的発達				
研究計画（400 字～500 字で記入すること。） Research Plan （Approximately 100 Words） 昨年度、イギリス英語における離接詞 likely に関して、very や most 等の強意副詞を伴って使用されるか否かという観点を中心に、1600 年代から 1900 年代後半までの変遷を、フィクションをテキストジャンルとするコーパスを主に利用して調査した結果、1600 年代では強意副詞を伴う比率が非常に少なく likely の単独使用が大多数を占めていたところ、1700 年代から 180 度の転換を起こしたがごとく強意副詞を伴う例が圧倒的多数を占めるようになったことを発見した（大津(2017)）。今年度は、コーパスのジャンルを日記や散文演劇など口語的な書き言葉のみならず、文語を含む多様な種類のジャンルについて綿密な調査を行い、この急激な転換のメカニズムを解明する研究を行いたい。					
共同研究可能な分野 Research Fields feasible for joint research *1	英語学				
キーワード Keywords*2	英語史	近代英語	現代英語	離接詞	likely